2026 年 11 月 20 日

社会学研究科

2026 年度リサーチ・コロキアム実施要領

１．目的

博士後期課程の学生の博士学位論文執筆を支援し、集団指導を受ける機会を設けること。2022 年度入学者から、「リサーチ・コロキアム」で学位請求論文に向けた研究の進捗を報告し、審査に合格していることが学位請求論文提出の条件となる。

２．対象

2022 年度以降 社会学研究科博士後期課程入学者

※ただし、以下のいずれかに該当する者を除く

・学位論文計画書の審査に合格していない者

・「リサーチ・コロキアム」実施時に休学している者

・すでに「リサーチ・コロキアム」に参加し、審査に合格している者

３．日時

2027 年 2 月 19 日（金）

人数に応じて会場を分割し、zoom による開催とする。

４．内容

① 報告の内容は、博士論文の序章もしくは 1 章分に相当する内容とする。具体的な内容は、指導教員及び副指導教員と相談して決定する。一例として、問題意識と論文のテーマ、先行研究のレビュー、論文の主張と独自性、用いる方法と資史料、全体の構成と概要、文献一覧など。

② リサーチ・コロキアムは、４研究分野ごとに開催する。

③ レジュメ（パワーポイントやワードなどで作成したもの）を開催 1 週間前までに manaba 上に提出する。レジュメにあわせて報告ペーパー（博士論文執筆へのステップとなる論文草稿や問題意識を文章化したもの、分量のしばりは設けないが、目安として 16,000 字程度が推奨される。）

④ 指導教員及び副指導教員が研究上必要と判断し、承諾した場合には、提出するレジュメ、報告ペーパー（目安は 6,400 ワード程度）を英語で作成し、報告を行うことができる。

⑤ 一人当たり報告 20 分、質疑 20 分とする。提出されたレジュメに基づいて報告することを原則とする。

⑥ 大学院生（学部５年一貫生含む）全員に公開する。報告者と同じ専門分野の大学院生は、原則として当該の会場に出席する。

⑦ 合否の基準は次のとおりとする。「学位論文審査の基準」に準じ、研究者として自立した能力を示す学位論文執筆の準備ができていると判断されること。

⑧　合格後の研究の進展により、学位請求論文のテーマや方法が変化しても構わない。
なお、不合格となった場合、指導教員及び副指導教員と三者で相談の上、出来るだけ速やかに再審査方針とスケジュールを設定し、3 年次の 5 月末までに再審査を行う。

参考：　学位論文審査の規準

1. 問題意識が明確であり、かつテーマ設定が説得的であること。
2 当該テーマのための方法が形成されており、かつ全体の叙述の中に貫かれていること。
3. 内外の研究文献と研究状況が必要な限りで把握されており、それを前提として展開されていること。
4. 叙述の過程の中で適切な仕方で論証および実証がなされていること。
5. 結論がそれまでの展開を踏まえて説得的に提示されていること。
6. 全体として、当該テーマに関する従来の研究状況に対して、意識的にオリジナリティーをつけ加えていること。

以上の項目は研究分野によってその必要度が異なるので、それを考慮して柔軟に適用するものとする。

⑨　リサーチ・コロキアムにエントリーした報告予定者が、現在の職場からの業務指示や病欠（要診断書）などのやむを得ない事情によりリサーチ・コロキアム当時に欠席せざるを得なくなった場合は、報告予定者本人、指導教員、副指導教員、およびコメンテーター（コメンテーターを指定する場合）の予定を調整して別日にリサーチ・コロキアムを追加実施する。この場合は、再審査期限との兼ね合いで、原則として 3 月末までのいずれかを実施日とする。また、追加実施に際しては、院生 ML と研究分野 ML で開催情報を公開して関係者が参加できるようにするとともに、報告資料についても manaba 経由で共有・閲覧できるようにする。

5 ・エントリー

エントリーシートに必要事項を記入し、事務室にメールで送付すること（soc-km@ad.hit-u.ac.jp）。申込期間は 2026 年 12 月 1日（火）～ 2027 年 1 月 12 日（火）。

なお、リサーチ・コロキアム実施予定日にやむを得ない事情により出席できないことが事前にわかっている場合は、指導教員を通じて大学院教育専門委員に相談すること。